

主圖版

「開皇本蘭亭序」

蘭亭序奉之書之帖

惠山吳

伊東參州先生題簽

開皇本蘭亭序

卷之四

永和九年歲在癸卯暮春之初會於會稽山陰之蘭亭脩禊事

伊東參州先生題簽

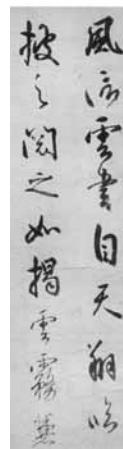
樂毅論王版十三行
陰符經
孫少卿

「魏晉唐小楷集」

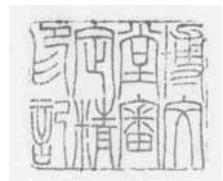
「落ち穂拾い記」③

『碑法帖影印本』

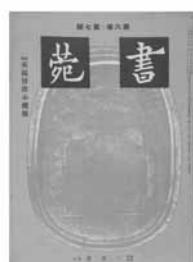
図①



『風信状』博文堂本



卷末の審定印



書を学ぶものにとって、日本や中国の古典碑法帖は、必須の書物であろう。大学で空海『風信状』の授業中、主任教授の伊東参州先生が『風信状』の用筆等を解説されたときに、「風信状」の印刷本として最も優れたものは、これであると話されて示されたのが、博文堂からコロタイプ印刷で精印された折帖『風信状』であった。巻末に大きな「博文堂審定精印記」の朱印が鮮やかに押された法帖であった(図①)。現在では、カラー精印の見事な印刷物があるが、この博文堂本は戦前から優れた影印法帖としての定評があった。印刷技術、造本装幀まで実に丁寧に手作りされていた。そのため部数も少なく古書店で見つけるのも容易ではなかった。当時は、二玄社の『書跡名品叢刊』や平凡社の『書道全集』が少しずつ刊行配本されていたが、新刊よりも古書の方に目が向き、戦前に刊行された日本や中国のコロタイプ本や石印本を多く探した。博文堂、晚翠軒、雄山閣、有止書局、文明書局、商務印書館等で刊行された碑法帖や、戦前の『談書会誌』『書苑』(法書会編)『書苑』(三省堂編)『書道』(泰東書道院編)『書藝』の書道雑誌の特集号や巻頭に紹介された古典碑法帖の写真版など、安い書道雑誌の端本を漁り、各種の碑法帖古典を求めた(図②)。雑誌の特集号などは、購入後、必要な部分だけを残し、新しく表紙をつけて、自己流で和綴じや折帖に製本した。表紙が破れていったり、綴じ糸が切れていたりするのを直すことも知らぬ間に覚えた。最後に表紙

に綺麗な用紙で題簽を貼って仕上げた。こうした整理や直しを狭い自室でなく、講義のない書道科の教室をよく利用した。ある日の作業中、続木湖山先生に声を掛けられ、雑談中に思いがけないことから、修理の終えた本の題簽を書いていた大いにことがあった。相澤春洋旧蔵のコロタイプ版『開皇本蘭亭序』を折帖にしたのを取り、机にあつた小筆を持ち、中を簡単なちらりと見て、立ったまま一気にサラリと書かれた。独特の行草体であり最後に小さく愚山署と題された(主図版右)。その書きぶりに驚いた。これに味をしめ、碑法帖に興味を示しておられた伊東参州先生にもお願いした。先生は、その場では筆を取られることなく、これを貸してくれと言われ、持ち帰られた。数日して大学でお会いしたときなどに、題簽を書かれたのを返してくださった。丁寧な小楷、行書風など先生独特の書風であった。署名し小さな落款印を押してくださるものもあった。ある時、文明書局のコロタイプ版『開皇本蘭亭序』(主図版中央)の折帖を手に取られ、後日題簽を書いたのを返してくださりながら、「この開皇本はいいな」と、続けて「数回全臨したよ」と話されたのは、いまだに忘ることはできない。その後も自分なりに面白いものを探しては、何度も題簽をお願いした。時には、「参州醉題」と署名されることもあった。こうしたこと为契机に、碑法帖の題簽の書にも関心を向けるようになった。

伊藤滋(書齋名・木鶏室)

書道芸術院

令和の群像 (2020)



第70回毎日書道展

杉本敦子書



杉本敦子

名久井裕三「風刻」から考えること

静かに深々と筆が下ろされる。切り込む線、脈打つ線、時折風が生まれる。まだまだ次々と線が重なる。やがて豊饒を謳うが筆を置くことはなく混沌としている。——刹那——静謐な玄なる“風刻”的世界が顯れる。線が蠢いている。それは生命、祈りのようだ。それは安らぎ、わずかな切り口から無限の空間が醸しだされる。

我師名久井裕三先生は大きな風刻の彼方へ逝ってしまわれた。先生は古典臨書に厳しく、意臨と形臨を問われ「そっくりさんではないよ」となかなか誉めては下さらなかつた。前衛作品の時はこんなものでも良いのかなど思っても、先生はやわらかく笑い、面白がつて下さった。古典の多くを学ばせていただき、し見つける旅、旅はまだまだ続く。

自由な発想を良しとして下さった。古典を通して変わらない搖るぎ無いもの。時代に呼応していれば否応なく変化していくことは自然なことだ。多様化され複雑になった現代を把握するためアートに出会い、西洋の美、東洋の美意識を学びそして求める。

他者の定義ではなくその時々個々に定義を持つ、必要に応じて選ぶ用具用材を媒体として視覚的に定着させる。そこに自分自身が存在するか虚飾することなく素直で率直な心境の発動があったのか。どんな気が動き、どんな質の空間が生まれるのか、恐くもあり楽しもある。

書とは何か。前衛とは何か。それを求め探して

書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

第73回書道芸術院展盛会に終了
作品解説会・ワークショップも盛況に

第73回目を迎えた書道芸術院展は、
東京都美術館を会場に盛会に開催され
た。以下概況を報告する。

2月4日(火)陳列作業が陳列部・各
会よりの協力者合わせ100余名と、担当
業者により、午前9時30分より行われ、
2400点余に上る作品を陳列部計画の原案
に基づき順調に配列、展示作業を行っ
た。都美6棟を使用しての大掛かりな
展示作業は少しでも狂うと大変なこと
になる。2階の1棟は学生展の会場と
なり、計7棟に亘る陳列作業であった。
当日午後3時半より、恒例の報道関
係者にお集まりいただき記者会見を行っ
た。20社近くの関係者の参加を得て、
本展の概況などを下谷洋子実行委員長、
辻元大雲運営委員長からご説明申し上
げた。

同時に評論家の眼の選考を、毎日新聞
社芸部桐山正寿記者、台東区立書
道美術館鍋島稻子主任学芸員のお二人
にご依頼し、それぞれ選考していただ
いた。直筆の批評を作品横に貼付、開
会に向け準備した。その後の夕食会で
は色々ご高説を伺うことが出来感謝。

2月5日から11日までの会期中には
作品解説会が計4回開催された。一般
公募・無鑑査を対象にして初日5日、
昨年の秋季展企画「書道芸術院の書」
かな、篆刻・刻字、前衛「17人の書」

年に、10日・11日には第1室幹部作品、
特別賞入賞作品などを中心にして行い、
各日多くの方々に参加していただき、
盛況であった。ただし初日の研究会は
平日であり、参加者がやや少なめで
あつたことが残念であった。

学生展会場でのワークショップは初
の試みとして、院企画委員会が担当し、
2020年のカレンダーに小品を揮毫して貼
りこむという簡単な内容だが、参加者
は大喜びで好評であった。8日・11日
の2回開催された。

9日には午前中、学生展大賞受賞者
による席上揮毫会が会場内で行われ、
小学生から高校生まで7名の代表が素
晴らしい揮毫を披露してくれた。昨年
同様皆さん落ち着いて堂々たる揮毫で
あった。最後に院幹部役員4名(辻元
大雲・小竹石雲・後藤大峰・名越蒼竹)
が半切大に古典臨書を各書体分担して
披露、喝采を浴びた。

午後からは帝国ホテルにて、全国学
生展表彰式、一般展表彰式そして祝賀
会と、多数の参列者により盛会に挙行
された。学生展では三岡昭博毎日新聞
総務企画部長、一般展表彰式は西村修
一毎日書道会専務理事、祝賀会は報道

お迎えし、毎日新聞社山科武司事業本
部長、全日本書道連盟星弘道理事長、
中国大使館石永善公使参事官にご挨拶
をいただき、西村専務理事のご発声で
乾杯、盛大な幕開けとなつた。

11日午後からの撤回、12日搬出と順
調に行われ、諸作業日程が無事終了し
た。関係各位に深く感謝したい。
(詳細報告次号以降にて)

第72回毎日書道展運営員会開催
2月3日、第72回毎日書道展運営員
会が如水会館にて開催され、今回の一
日の開催となり、当番審査員・会員
賞選考委員など主要役員が決定した。
・院関係役員

・会員賞選考委員
理事・監事 辻元大雲・下谷洋子
種谷萬城(漢)、浜田掌光(近)
田子白嶺(かI)、木村東舟(かII)
佐久間幸扇(近)、熊谷宗苑(近)
雲・後藤大峰)が参列、玄遠社より小
伏竹村顧問、小林琴水会長、地元安芸
市市長ほか多数が参列した。

開幕式終了後、ホテルなりで祝賀
会が開催され盛況であった。

恩地春洋遺墨展安芸市立書道美術
館にて開催

本院理事長、会長を務められた恩地
春洋先生の遺墨展が、四国高知県安芸
市にて開催されている。安芸市立書道
美術館主催による企画展で、安芸全国
書展の軌跡とサブタイトルがつけられ、
全国展の主要審査員の作品も併せて展
示されている。本院・玄遠社などが後
援している。

会期(2月1日~3月15日)初日午
後から開幕式が行われ、本院より辻元
理事長・常務理事(下谷洋子・小竹石
雲・後藤大峰)が参列、玄遠社より小
伏竹村顧問、小林琴水会長、地元安芸
市市長ほか多数が参列した。

開幕式終了後、ホテルなりで祝賀
会が開催され盛況であった。

午後からは帝国ホテルにて、全国学
生展表彰式、一般展表彰式そして祝賀
会と、多数の参列者により盛会に挙行
された。学生展では三岡昭博毎日新聞
総務企画部長、一般展表彰式は西村修
一毎日書道会専務理事、祝賀会は報道

*その他各部委員略
・総務副部長 三森慧香(前)
・入落担当主任 勝山初美(か)
・工藤溪舟(刻)
・板垣洞仙(前)、大石仙岳(前)
・北村白琉(前)
・飯田春香(大)、崎井恵風(大)
・田村鄭雲(近)
・飯田春香(大)、崎井恵風(大)
・佐久間幸扇(近)、熊谷宗苑(近)
・佐久間幸扇(近)、熊谷宗苑(近)
・総務副部長 三森慧香(前)
・入落担当主任 勝山初美(か)



遺墨展会場前にて

現代詩文書
(六)

高田幽玄

書を越えた書
世の中には一度で分かるものと一生かかってようやく少しは分かるものと二通りあるようです。東洋における道のつくものはなかなか一筋縄ではいかないもののです。

練磨は欠かせません。鍛錬の果てにようやく掴める僅かな光を一生かかって憧れつづけて腕を磨いて行くしか道はないと思います。精神論では字は書けません。私にとって書とは、身も心もこの手にしたいという、かなわぬ恋愛のようなものなのかもしれません。



高田幽玄書

21世紀の書

—私の主張—



第66回書道藝術院展 「みよしのゝ」

須田清子書

離れるが、現在私は
縁あってお菓子の専門学校の和菓子科の生徒に書を指導している。書とは直接関係はない

ら打つことが多くなりつつあるが、老若男女問わず、筆文字に憧れる根底はそこにあるかと思つてゐる。書けなくとも、読めなくとも筆文字にはそれを眺めるだけで何か温かいぬくもりを感じさせ、心地良い気分にさせてくれる要素がある。筆書に触れる人達が少なくなりつたる時代であればこそ、今後も日本文化の大きな宝である筆文字伝承を私自身かな作品を通じて、一生やつていけることを心から念じている現在である。

ら打つことが多くなりつつあるが、老若男女問わず、筆文字に憧れる根底はそこにあるかと思つてゐる。書けなくとも、読めなくとも筆文字にはそれを眺めるだけで何か温かいぬくもりを感じさせ、心地良い気分にさせてくれる要素がある。筆書に触れる人達が少なくなりつたる時代であればこそ、今後も日本文化の大きな宝である筆文字伝承を私自身かな作品を通じて、一生やつていけることを心から念じている現在である。

“守破離”とは
私の主張の最後の回として、か
な書における“守破離”とはどうい
うことかを考えてみた。書における
“守”とはやはり古典をしつかり
て基礎を習得する。“破”とはそ
の基礎にもとづき自分独自の薰り
を少しだけ入れていく。“離”とは
今迄学んだ事を踏まえて、自分の
作品を創り上げていくことと考え
る。自分の作品を創ることはこの
が、和菓子創作でも“守破離”的考
え方に共通点がある。江戸時代か
らの和菓子の伝統的な根幹を学び
それから少し今風の和菓子を創つ
ていき、そして最終的には自分独
自の和菓子を創作していく。つまり
どの世界であっても、この“守
破離”的理念は同じである。私は
和菓子の学校に伺っている縁でた
まにお菓子屋さんから依頼され、
その店名を書くことがある。その

か
な
(六)

須田清子

「書道芸術」競書部門など変更のお知らせ

「書道芸術」4月号(708)から内容
が一部変更になります。詳細につい
てお知らせします。奮ってご出品を
お願い致します。

1. 「篆刻部」を新設

△募集規定▽

- 創作 語句は任意（4字以内）
- 篆刻 原印は任意（応募の際、
原印のコピー添付）
- 印面の大きさは2・3センチ以
内とし朱文、白文自由。
- 創作、篆刻とも応募は各1点と
する。
- 審査結果は段級を設けない。優
秀作品と選評を掲載する。

2. 「実用書」を新設

△募集規定▽

- 用紙 半紙横 $\frac{1}{2}$ (24×16.5cm)、B5
コピー用紙縦(26×18.1cm)
も可。

1.	242cm (8尺)×61cm (2尺)	2.	182cm (6尺)×79cm (2.6尺)	3.	176cm (5.8尺)×85cm (2.8尺)	4.	121cm (4尺)×121cm (4尺)	5.	136cm (4.5尺)×106cm (3.5尺)	6.	その他
----	----------------------------	----	------------------------------	----	--------------------------------	----	-----------------------------	----	---------------------------------	----	-----

- 課題 每月参考語句、手紙文な
ど指定の語句を書く。

- 毛筆小筆、筆ペン、サインペン
も可。

- 審査結果は段級を設けない。優
秀作品と選評を掲載する。

B. 小作品の部の作品寸法 (創作・臨書)

- 半切 $\frac{1}{3}$ 以上半切以内
(縦横自由)

- ◎「特別研究部」大作の部・小作品
の部(創作・臨書)一人一点出品と
する。

※応募資格

- 審査会員・審査会員候補・無鑑査・
一般講読者どなたでも出品できます

3. 「特別研究部」の作品サイズの 変更

- A. 大作の部とB. 小作品の部を設
ける。

- A. 大作の部の作品寸法
(創作・臨書)
- 毎日展審査会員・会員サイズ
以内
(縦横自由)
- 3月号(707)をもちまして終了いた
します。代わって、新企画は6月
号(710)から掲載予定です。

※応募資格

- 審査会員・審査会員候補・無鑑査・
一般講読者どなたでも出品できます

4. 「21世紀の書—私の主張—」は 3月号(707)をもちまして終了いた します。代わって、新企画は6月 号(710)から掲載予定です。

- ※不明な点がありましたら、編集部
までお問い合わせください。

※応募資格

- 審査会員・審査会員候補・無鑑査・
一般講読者どなたでも出品できます

- 毎日展審査会員・会員サイズ
以内
(縦横自由)

れいき
礼器碑（後漢・156年）③



〔解説〕隸書の主な特徴として、①字形は扁平、②横画は水平・等間隔、③起筆は逆筆・藏鋒、④運筆は中鋒（筆先が主に線の中央を通る）、⑤波磔（横画や右払いの收筆のうねるリズムのこと）。波磔をつけるのは前3世紀頃とされ、篆書を簡略化した過渡的な書風を「秦隸」とよぶ。前漢時代（紀元前206～8年）になると篆書から隸書への移行が進み、「秦隸」と平行して草書のもととなる速書きの「草隸」など多様な書風が展開された。前漢末には、波磔を強調した装飾的な「八分」（漢隸）の様式が整い、隸書は公用書体として発達した。後漢末には碑を建てることが流行すると、洗練された「八分」が用いられ、礼器碑や曹全碑・乙瑛碑・張遷碑など数多くの名品が生まれた。

（編集部）

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨（押印のみも可）

※掲載図版65%縮小

漢字研究部臨書課題 = (半紙普通判・縦使用) 上記掲載部分より何文字臨書してもよい。

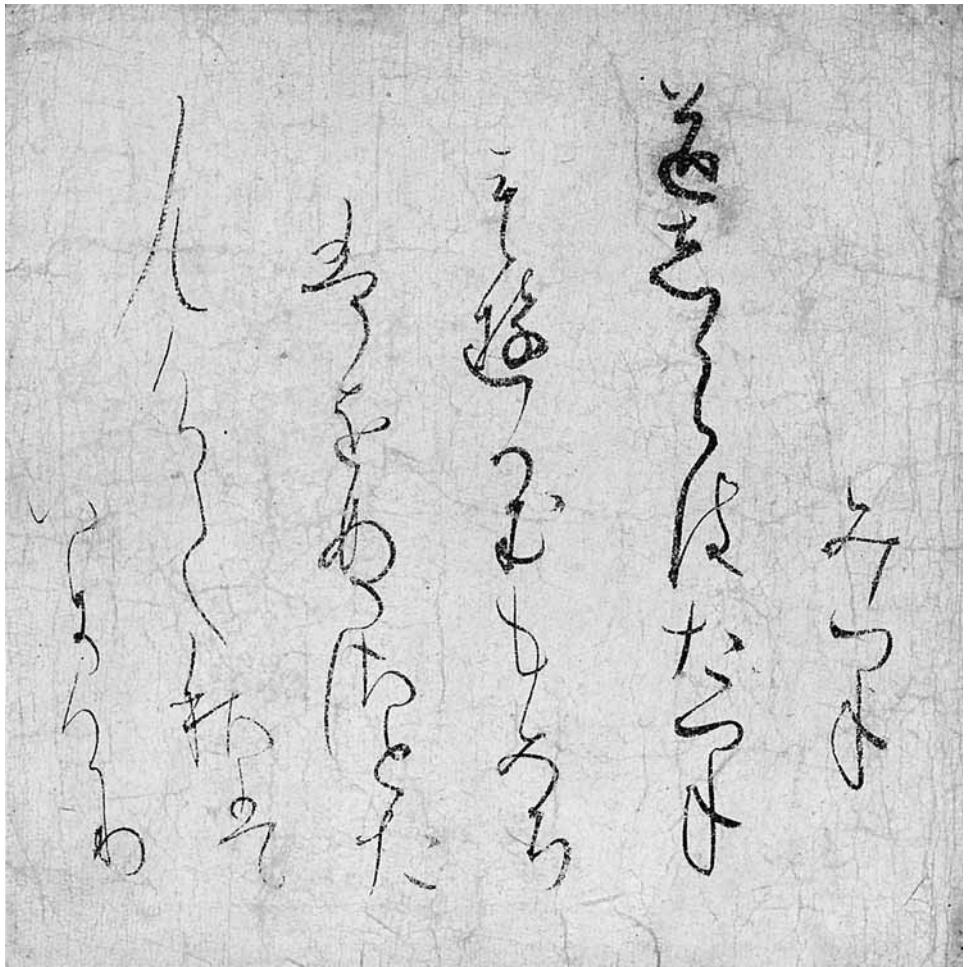
特別研究部臨書課題 = (毎日展公募サイズ以内・縦横自由) 当該古典の上記掲載部分以外も可。

みつね年

道志らばたづね年

毛邊可
もゆかむもみぢ無介呈
むけで秋は

ばをぬさとた

いにけり
いにけり利

※掲載図版は原寸

〈解説〉寸松庵色紙の散らし方は、和歌を4～6行に配したもの（集団形式）や上下左右に文字群を配したもの（分裂形式）など、基本的に7形式に分類される。①高低式（行頭が高低を繰り返す形式）②通下式（行頭に高低の変化がなく、緩やかな曲線を作る形式）③混合式（高低式と通下式がいつしょになった形式）④左右分裂式（左右二つの文字群が互いにバランスを取り合っている形式）⑤右下左上分裂式（色紙の対角線で区切られ、右下と左上に文字群が分かれている形式）⑥上下分裂式（上部に大部分の行を配置しながらも下部の余白を生かした形式）⑦虚実式（左半分には文字を置かず（虚）右半分のみ全ての行を配置（実）する形式）。いずれも表情豊かな連綿と空間の美しさにより、紙面全体が美しく調和している。寸松庵色紙は格調の高さは古筆屈指のもので、その書風と料紙から、11世紀後半の書写と推定される。

(編集部)

※「寸松庵色紙」は、たて128cm よこ126cmの
枠（原寸大）を半紙にとり、その中に上
記の歌一首を書く。（料紙を裁断して貼付
也可）

※落款を必ず入れる。落款は枠外に書く。
○○臨、印のみも可。（枠外に押印）

かな研究部臨書課題 半紙普通判（料紙可）縦長に使用

特別研究部
臨書課題 (毎日展公募サイズ以内・縦横自由)
上記の掲載以外も可。

千葉蒼玄

秋收冬藏 (千字文)

秋收冬藏



書体=自由



参考作品

楷行草隸篆と五体を続けたが、最終回は文字の始まりでもある甲骨文を書いた。甲骨は今から3500年も前の文字であり篆書に分類されるが、大篆小篆よりも視覚的要素が高い。「秋」はイナゴ、「収」は縄をより合わせる。「冬」は末端を結びとめる、「藏」は神に仕える者を矛で清める、である。線は直線であるが、一直線には引かず硬いものを刻むようにリズムで何回かに分けて引くと線に重みが出る。この甲骨を大字書、前衛書に展開している作家も多い。あまり書きなれない人もあるかと思うので草書を参考に載せた。

習い方解説 (六)

坂本素雪

鶯語花舞
(うぐいすは語り花は舞う)

春の装いを感じさせる言葉で、
氣分も華やいでまいります。しか
し書く文字は右上と左下に画数の
多い文字が配されて全体的にはバ
ランスの取りにくい構成となって
います。横画の多い字は、細太、
長短、方向をよく観察して、隣と
上の文字を見ながらバランスを取っ
て下さい。

「花」=鳥の下部は少し大きめに書
くように。

「語」=偏と旁のバランスが難しい
文字です。特に言は小さく
ならないように注意して下
さい。

「花」=画数の少ない文字です。五
画目と最終筆の長さでバラ
ンスを取って下さい。

「舞」=横画をキリッと引き締まつ
た線質になると全体が美し
くなります。

鶯語花舞 よみ(うぐいすは語り花は舞う)



書体=楷書

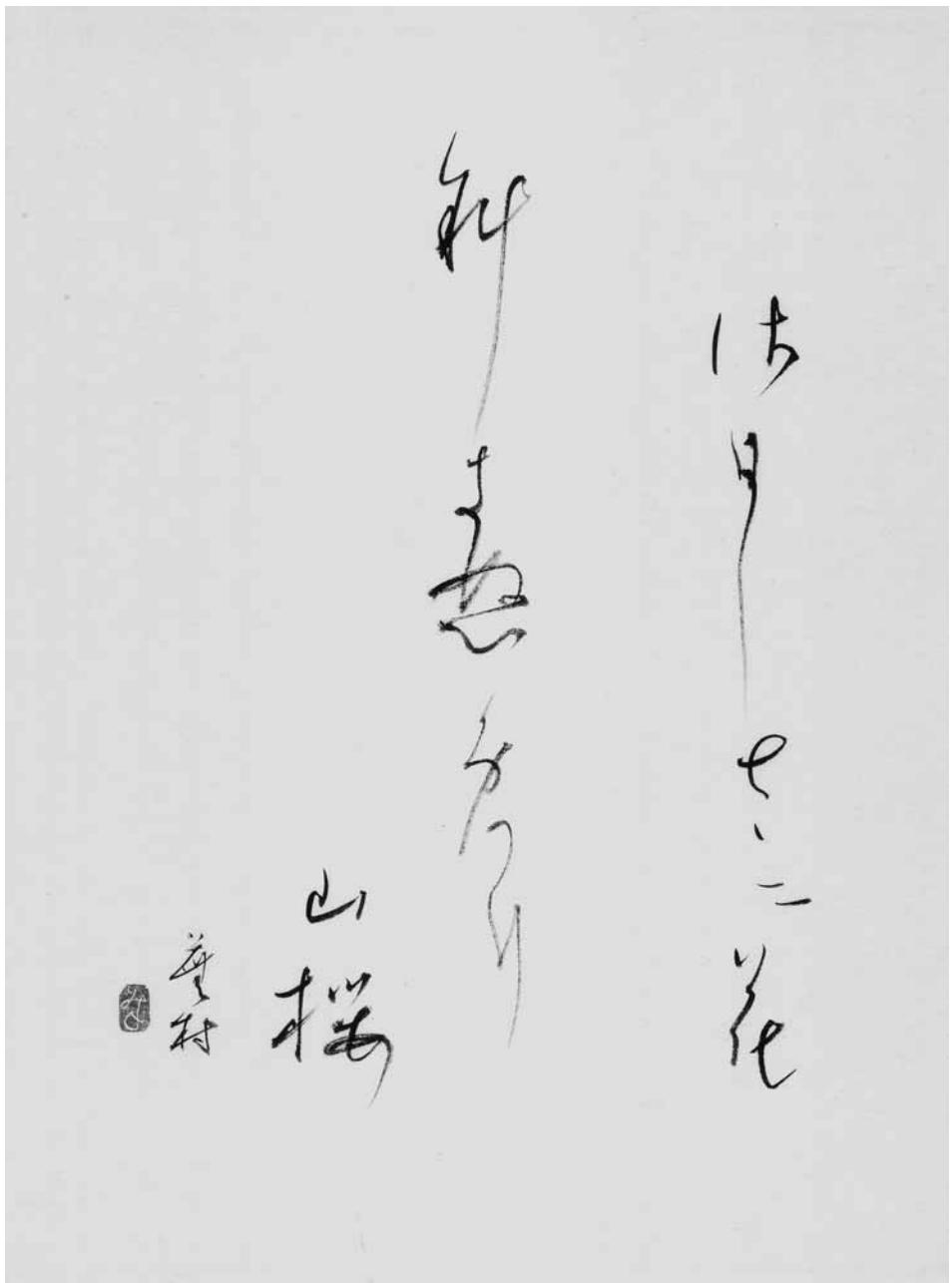
かな規定 初段以上【四月十五日締めきり】用紙 半紙普通判(料紙可)

平川峰子選書

習い方解説 (三)

平川峰子

さびしさに花咲きぬめり山櫻
(与謝蕪村)



俳句の作品は、余白を考えて構成してください。字間、行間のとり方が景色を左右します。字数が少ないので、1文字で伸ばせる「し・斜・り」を使うことも工夫の一つです。この俳句にはさが三つ含まれています。どの字を変体がなに置き換えて構成するか字典で調べてください。字典の中に有つても使用頻度の少ない文字は避けた方が良いと思います。

「花・山櫻」は漢字にしましたが変体がなに変換して構成を変えても良いでしょう。

今回の作品は連綿線が少ないので、文字と文字を呼吸でつなぐ意連が必要です。観る人に、その意連が自然に伝わるためにには日頃から古筆を臨書して運筆の緩急の変化を学んでください。

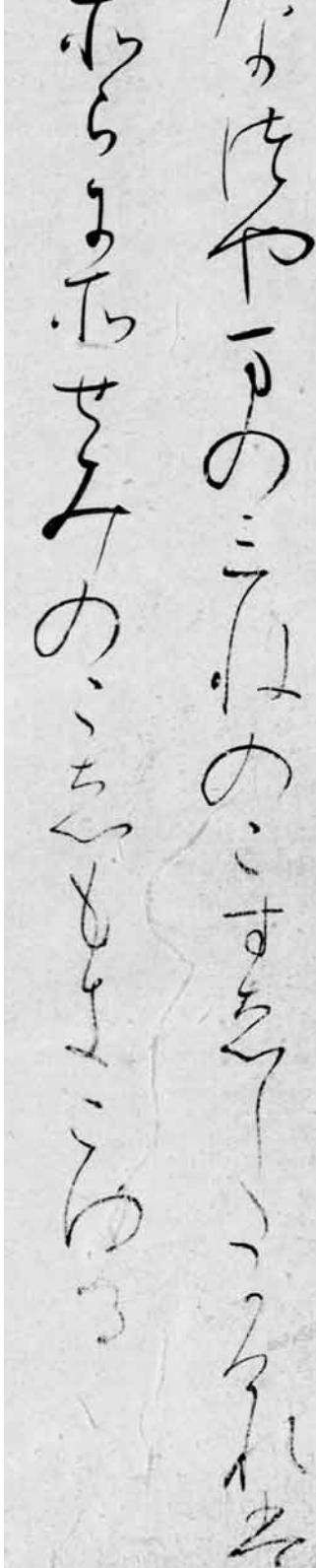
よみ方 さ(佐)び(田)しさに花咲(斜)き(支)ぬ(怒)め(免)り山櫻 (蕪村)

創作

かな規定 秀級以下【四月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

(掲載写真の和歌を臨書する。または部分(2字以上)の連綿または単体を含む)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集
(掲載写真拡大120%)



よみ方 なつ(徒)やま(万)のみ(い)ねのこすゑした(多)か(句)け(介)れば(聲)

そ(所)らに(尔)ぞ(所)せみのこゑもき(支)こゑる

習い方解説 (三)

松 村 くに子選書

蝶々や屋は朱雀の道淋し
(堀麦水)

かな条幅規定【四月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

松 村 くに子選書



俳句は、句意を損なわないように漢語をそのまま書く場合が多い
かと思います。

どんな漢字を用いるか悩むところですが、かな文字との調和がとれる漢字の姿がありますので、辞典などを参考に工夫してみてください。現代的なかなへの一步につながるのではないでしょうか。

よみ方 蝶々や屋は(者)朱雀の道(二連)淋(さひ)し

創作

* タテ形式に限る

漢字条幅規定 初段以上 【四月十五日締めきり】

用紙 小画仙紙半切

辻元大雲選書

習い方解説 (六)

辻元大雲



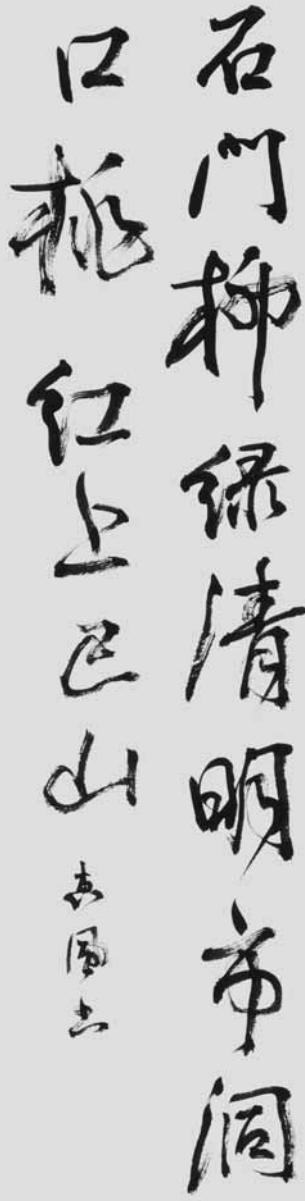
漢字条幅規定 秀級以下 【四月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

崎井恵風選書

習い方解説 (六)

崎井恵風

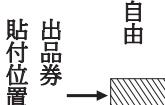
最終月です。「石門の柳の緑と、洞の入口の桃花の赤と美しい色彩の対比」を詠んだ詩です。
「集字聖教序」を参考にしまして、王羲之の品格ある作品には及びません。行書の流れのある作に仕上げてください。



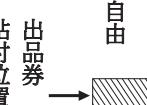
石門柳緑清明市 洞口桃紅上巳山 (范西湖詩)
(石門柳緑なり清明の市、洞口桃は紅なり上巳の山)

書体=自由

故園渺何處 鶯思方悠哉 淮南秋雨夜 高齋聞雁來
(故園渺として何れの処ぞ 鶯思方に悠なる哉) 淮南秋雨夜 (章應物)
高齋雁の来るを聞く



*ヨコ形式に限る



横形式の場合、行間の取り方がポイントです。参考例は8行でやや広めとしておりますが、7行構成も良いと思います。潤渴の変化も考慮しながら、いろいろ工夫してみて下さい。

横形式の場合、行間の取り方がポイントです。参考例は8行でやや広めとしておりますが、7行構成も良いと思います。潤渴の変化も考慮しながら、いろいろ工夫してみて下さい。

山田梓江

締めくくりを後鳥羽院と

順徳院の親子に一たのは、

政治的に不幸な幕切れだった
二人を最後に飾つてあげた

かつたらうい。 梓江書

梓江書

6ヶ月間続いた小倉百人一首も最後になりました。

99番の後鳥羽院の歌は33歳の時の歌で、世を憂い切ない思いを詠っています。その後鎌倉幕府打倒を企てたけれど失敗して隠岐に配流され、在島19年にして60歳で崩御。

100番の順徳院は後鳥羽院の第三皇子で、父親の幕府打倒に積極的に参加したということで佐渡に配流されました。子供の頃の雅やかな宮中の事を述懐し、20歳の頃詠んだ歌ですが、20数年間寂しい境遇にあり島で崩御されました。

百人一首の締めくくりとしては寂しい歌ですが、華やかなりし時もそうでない時もあるのが人生だということを教えてくれているように感じます。

小倉百人一首には色々な説がありますので、ご自分で調べて楽しんでみて下さい。

用紙=はがきの大きさ(14.8×10cm)、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

今月の

各部総評 木一派作品 NO. 705

No. 705

暢達した筆致で、落ち書きのあ
る作。潤滑の変化もバランスよく
安定した作となつた。

かなな条幅部 準師 工藤 山房
参考手本をよく理解し、穏やか
で丁寧な運びに好感。この上は書
き込んでリズムの伸縮を加えたい。
◎かなな条幅部 総評 正月を陸、初
めを始とは書きたくないですね。



漢字条幅部 師範 井上 洋硯
骨格のしつかり安定した作。行
書のリズム感が紙面に広がり、動
きある表現となつた。



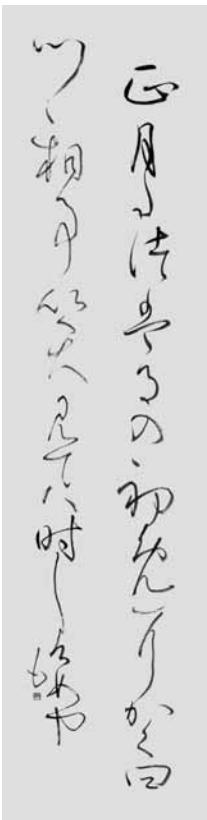
◎漢字条幅部総評　上級2行表現
は安定作が多かったが、やや平凡。
もつと意欲的な取り組みを期待する。
下級1行も同様。（大雲評）



かな部 師範 富澤 白雲
確かな線質に支えられた、過剰でない表現が快く知的である。更には湿度感が加味されると完璧。
◎かな部総評 手本の構成を把握しきれなかつた人多出。迷つたら自分のスタイルで表現のこと。霞の誤字散見は残念。(明子評)

百人一首のうち恋の歌が四十三首。秋の歌が十六首。恋の不思議さや秋のもの哀らしさなど、定家の好みが

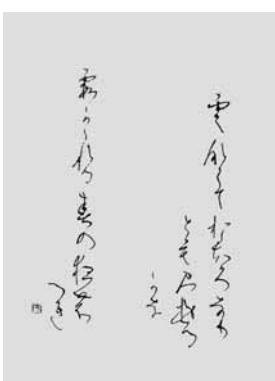
ペン字部 師範 吉瀬 彩雨
単調になりがちな細芯のボール
ペンで豊かに表現された。字形も
安定し、格調高い作品に敬服。
◎ペン字部総評 誤字少なく丁寧
な作が多く悦ばしい。配字も必要不
可欠ですが、天地左右の余白も大
切な要素の一つです。（雪枝評）



現代詩文書部 特選 大友 四峰

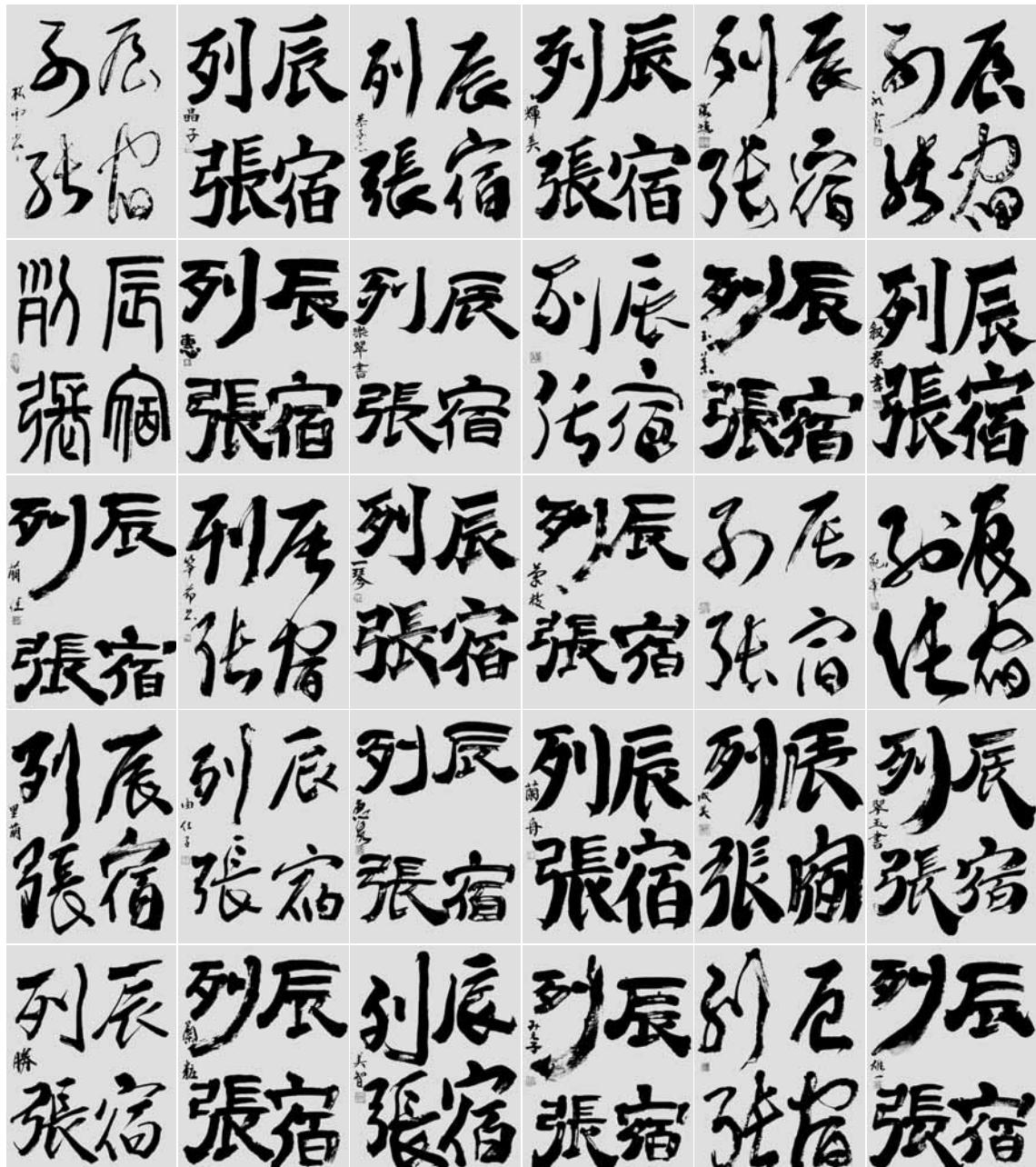
現代詩文書部 特選 大友 四峰
先ず線質が千変万化に富み楽し
ませてくれる。大文字と小文字の
組み合わせが妙を得てすばらしい。
○現代詩文書部總評 詩文作者名・
自署・印の全て揃えて一つの作品
になる。注意を。

前衛書部 特選 前島登代子
独自の感性と表現力が發揮された作。淡墨の奥行きと濃墨の軽妙な線の融合が絶妙である。
◎前衛書部 総評 技巧的な作が目えるが、造形・線質にリズム感ある圧巻作も期待したい。(蓮紅評)



かな部 師範 富澤 白雲
確かな線質に支えられた、過剰でない表現が快く知的である。更には湿度感が加味されると完璧。
◎かな部総評 手本の構成を把握しきれなかつた人多出。迷つたら自分のスタイルで表現のこと。霞の誤字散見は残念。(明子評)

当選漢字



三	三	四	四	五	五	五	準	準	準	準	師	師	師	師	師	師	師	師	師
里	祥	松	萌	由	樂	晶	恭	惠	一	輝	藤	紅	孝	霞					
勝	萌	苑	佳	紀	翠	子	惠	泉	琴	岳	玉	翠	叙	夫					
		雲		子	美	智	惠	明	一	舟	葉	一	玉	一					
				子	渴	氣	耀	透	美	蘭	穗	白	青	葉					
					線	力	動	透	美	舟	穂	露	簾	扇					
					質	充	感	明	白	蘭	穎	一	青	葉					
					度	鍊	動	透	美	舟	穎	白	青	葉					
					高	高	快	透	美	蘭	穎	露	簾	扇					
					線	線	感	透	美	舟	穎	一	青	葉					
					質	質	動	透	美	蘭	穎	白	青	葉					
					重	充	感	透	美	舟	穎	露	簾	扇					
					厚	美	動	透	美	蘭	穎	白	青	葉					
					定	鍊	感	透	美	舟	穎	露	簾	扇					
					作	作	動	透	美	蘭	穎	白	青	葉					
					品	品	感	透	美	舟	穎	露	簾	扇					
					事	事	動	透	美	蘭	穎	白	青	葉					
					見	見	感	透	美	舟	穎	露	簾	扇					
					事	事	動	透	美	蘭	穎	白	青	葉					

選評

大雲

青簾

菜扇

白露

鄭街

大胆な運筆の魅力作
北魏方筆の体を得る
運筆の大きさで活躍
切れ味快な木簡風
ねばり強い筆致の妙

シャープな線の妙味
重量感ある隸書表現
爽快さと明るさの作
のびやかに広がる作
ねばり強い筆致の妙

大らかな味わいの作
直線を生かした隸書
顔法の風を得て充実
筆勢厳しく見事な快作

着実な運筆温雅な楷
線質重厚で安定の作
切れ味鋭く深い線質
明るく爽やかな作

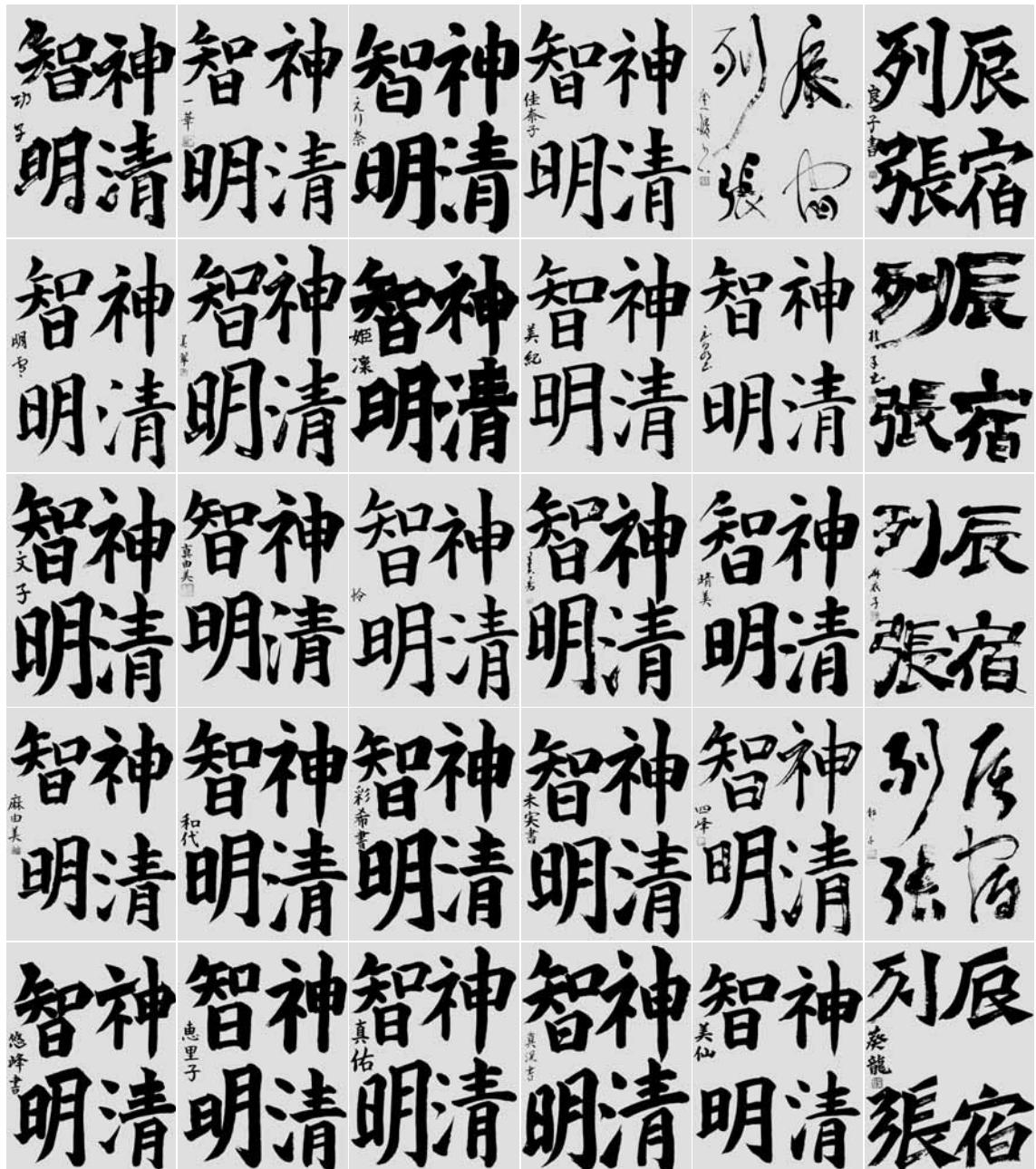
筆力充実し鍛度高い
渴線と余白美の妙
気力溢れ躍动感あり
どっしりと迫力あり

端正で着実な味わい
直線を生かした隸書
顔法の風を得て充実
筆勢厳しく見事な快作

温かい線質で上品
線質重厚で安定の作
切れ味鋭く深い線質
明るく爽やかな作

着実な運筆温雅な楷
線質重厚で安定の作
切れ味鋭く深い線質
明るく爽やかな作

当選漢字



10 9 8 7 7

6 6 5 5 4

4 3 3 2 2

1 1 特 特 優

優 秀 秀 初

初 初 二 二

功
明
子
文
子
麻
由
美
子

一
翠
華
真
美
芳
未
實
希
祐

姫
凜
怜
美
紀
彩
真
実
運
腕

佳
奈
子
美
紀
彩
眞
淳
大

玉
奎
媛
峰
泉
濃
墨
仙
大

良
子
桂
子
静
子
龍
張

大胆な書法で豪快
リズムに乗り闘達
自然で安定した運筆
六朝用筆で力強い楷

線に味わいあり
彈力ある線魅力の作
古典への取り組み評価
字形整い素直な運筆
ゆったりとした雰囲気

顔法學んで堂々の作
造像記風 白が生きる
暢びやかで美しい作
重厚な線で堂々の書
運腕大きく懐広い作

結体良くすつきり
落款まで良く調和
たっぷり暢やかな作
筆先まで整い温かい作
スケール大筆勢あり

点の重み渴筆生かす
力みなく澄明美しい
鍾繇風の温かみあり
濃墨生かし暢やか
たっぷり温かい書

北魏習熟鍛えられた線
渴筆の妙味迫力有り
漢簡字び波磔伸びやか
張が巧みに引き締める
結体線質落款調和す

当選かな



9865 4321 特優秀秀
真直真久 明とよ子
佑子菜美 綾世子
信玉幸芳 乃泉代子
雪乃奈子

初初二二三	三四四五五	五準準準師	師師師師
千千麗美紅里子	成春峰みどり子	和純谿やよえ子	泰紅梨真紀
鶴子保雲	悦佳子	琳霞紅翠嶺	雪子嶺
	渴筆、行のゆれ強調	潤渴見事でおおらか	雅味あふれる佳作
	難しい構成を制する	練達の線が美しい	手本との対峙がよい
	細部まで丁寧な運筆	温かい線で自然な作	しなやかな線が魅力
	澄んで切れるある線条	潤渴も秀	温かい線で古典美
	鋭く伸びやかな線情	粘りある線流麗	静けさあり老練の作
	明確に特徴つかむ	難い筆致で余白美事	潔い筆致で余白美事

選評
明子 清子
瑞舟 多希子

當選漢字條幅

選評
鄭大雲
萬城
藤峰

9	8	7	6	5	4	3	2	1	特	秀	初	二	三	四	五	準	準	師	師	師	師	師	師	谷	秀	選評
功	久	早	美	翠	国	直	惠	子	有	里	國	子	彩	将	奈	桂	由	紫	藤	裕	藤	惠	春	竹	寿	鄭雲
子	英	紀	翠	惠	子	美	香	子	有	里	有	里	香	義	々	桂	紀	香	瓊	香	雲	雲	峰	峰	豪峰	
動	き	の	構	成	よ	く	落	款	ま	で	一	貫	流れ	も	あ	り	堂	な	中	の	い	か	な	り	萬城	
き	の	確	実	な	連	筆	で	安	定	て	一	貫	字	形	整	い	線	に	勢	い	あ	り	れ	る	藤扇	
き	の	動	き	の	ある	線	で	作	た	つ	ぶ	り	豊	か	な	木	簡	柔	ら	か	な	筆	致	の	妙	

幅 条 條 選 当



選評 洋子 峰子 東予

準師 由紀子 正確で丁寧、温雅作
紅雲 軽快な線質動き美し

四五 幽彩 潤渴美しく伸びやか
汐風 運筆なめらかで好感

二三 とみ子 端正で穏やか安定作
登江 字形運筆巧みで潔い

秀初 美梢 筆鋒利きリズミカル
恵子 運筆丁寧で温かみあり

特優 正子 墨の潤渴良く映える
眞華 大胆な縱画練度高し

43 幸代 かおり リズムと結体美しい
動き良く充実の作

当選ペン字

前衛書部(特選)

現代詩文書部(特選)



蒼光子 惠津子 惠美子 朋悦 美千代 伸也

風月 房雨枝 泉 甘幸 風苑 伸一

風子 風子 風子 風子 風子 風子

惠美子 伸也 紫淑子 伸一 紅霞香 伸一

風月 風子 光 風子 雲 風子

風子 風子 光 風子 風子 風子

風子 颊子 光 颊子 颊子 颊子

紅雲 雲 紅雲 雲 紅雲 雲

龍扇 雲 龍扇 雲 龍扇 雲

雅章 雲 雅章 雲 雅章 雲

智惠 雲 智惠 雲 智惠 雲

芳雨 雲 芳雨 雲 芳雨 雲

彩霞 雲 彩霞 雲 彩霞 雲

祥雲 雲 祥雲 雲 祥雲 雲

紅雲 雲 紅雲 雲 紅雲 雲

雲雲 雲 雲雲 雲 雲雲 雲

選評 山田梓江

今月の

特別研究部優秀作品(特選)

選評 辻元大雲 白石和楓 木村東舟 倉林紅瑠



174×55cm

田中岳舟書

◆思い切った大小、太細の変化で動きある表現となつた。滑らかな筆致が甘ったるさを感じさせるか。

(大雲評)

◆たっぷりの濃墨で、自在の運筆が快い。線質の変化で作品に厚みを感じる。「棒」の太い縦線に味あり。

(東舟評)

◆渴筆の動きに穂先の鋭い線、大胆に墨量を加え氣字の大きさが見事にマッチ。縦2行のバランス良。

(和楓評)

◆氣字大きく大胆な運筆が冴え、その迫力に圧倒される。躍動感溢れ、見応えある快作。

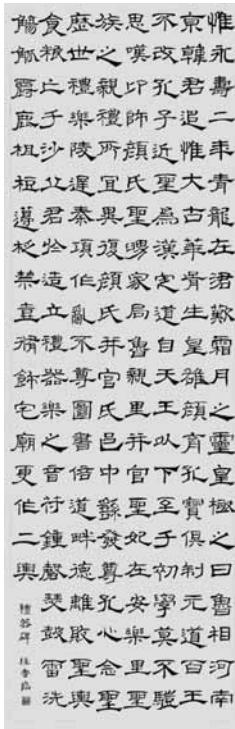
(紅瑠評)

漢字

(静心書道会)

田中岳舟「北風行」

佐藤桂香臨



170×55cm

◆やや拡大した表現にのびやかさを感じられ、広がありある作。字形のバランスや波磔表現など見事。

(大雲評)

◆原帖を良く捉え、余裕があり、見ていて飽きない作品。終筆まで心がゆきとどき、学書態度に敬服。

(和楓評)

◆原帖の特徴を細部までよく観察し、精妙さを感じさせる。変化に富んだ縦画・横画、歯切れのよい鋭い波磔など表現技術の高さに感服。

(紅瑠評)



180×60cm

前衛書

(白珠)

相内沙莉「流星」

相内沙莉書

◆二枚紙の特質を青淡墨で生かした作。踊るようなリズム感に魅きつけられる。中央左やや乱れたか。

(大雲評)

◆冒頭に沈着を中心にして縦に一線が貫通し、飛沫が中央で活躍している。バランス良く、墨色も温かい。

(和楓評)

◆淡墨の冴えある潤滑の変化から生まれるリズムが魅力。飛沫も効果的で、明るく爽やかな作。

(紅瑠評)

◆リズミカルで心楽しくさせる。淡墨の飛沫が夜空を彩る流星の様に可愛らしく、より効果的。

(東舟評)

臨書

(英峰会)

佐藤桂香「礼器碑」

◆やや拡大した表現にのびやかさを感じられ、広がありある作。字形のバランスや波磔表現など見事。

(大雲評)

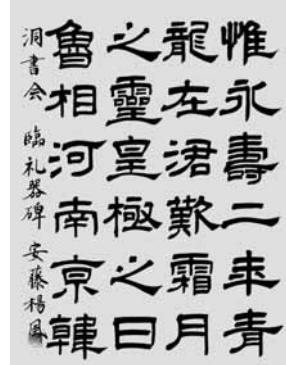
◆原帖の特徴を細部までよく観察し、精妙さを感じさせる。変化に富んだ縦画・横画、歯切れのよい鋭い波磔など表現技術の高さに感服。

(紅瑠評)

漢字研究部
(礼器碑)

選評 川島舟錦

今月のホープ作品



安藤楊風

漢字研究部 特選 安藤楊風
日頃の鍛錬のたまもの、凜とした線、慣れ
た筆使いで、20数文字を紙面にしつかりまと
めあげました。謹厳・整齊ですが、やや画一
的になりました。「抑揚」などを意識され
ると、さらに臨書が深まりそうです。

◎漢字研究部総評
「一月はいめる、二月は逃げる、三月は去
る」無情にも月日の流れの早いこと。日々、

忙しさの中で翻弄されています。そんな中で
も、臨書や作品作りは、できるだけ深さを追
及したいもの。師も弟子も「あと一步粘って
ほしかった(粘りたかった)」を繰り返す歯
がゆさ。
鑑賞と表現を意識的に高めていくことが大切
かと考えます。自分自身の、感じ取った美的
感性を信じ、足りないところを師に補っていた
だきながら、さらに成長し続けたいものです。



千清国竹遊美
代子耀子寿山子

明叙蒼蘭玲和
祥孝信花子美

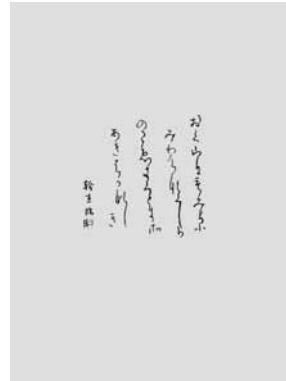
良紫美芝節花
子千里香子雪

良幸紅雅谷光
章雲雨悠秀彩

か な 研 究 部
(寸松庵色紙)

選評 庄 司 紅 郷

今月のホープ作品



飯 高 幹 生

かな研究部 特選 飯 高 幹 生

ゆつたりとした運筆で、寸松庵色紙の美しさを表現しています。構成・線質・字形ともに古筆の特徴を捉え、柔らかく張りのある作品です。

○かな研究部総評

古筆を学ぶ者にとって寸松庵色紙はあこがれの存在です。直筆を基本に用筆を正しく学習して下さい。散らしも正しく理解して欲しいです。

かな研究部成績表

玄高誠有水洞高 穹井和次海書陵 秀	祥千琇洞樹書高上椿颯白八書大松文書千玉樹昌穉誠高う 紫葉韻書原泉崎原翠葵珠街游雲村筆游葉松原苑翠和崎る	特選
尾櫻鶴石飯安會 形田澤川景辰木 作	杉菊竹中庄永北早安後相井庄驚青熊小戸橋早吉平石小飯 田地内村司井村部藤藤内上司山木谷野村本坂田山崎峰高 美	か
紅和琴洋洋楊勇 霞子舟子風介 <small>(50画)</small>	睦泰智寛紫伯欣代良沙芝味美玉葉蘭心博紅麗梅翠綾子 子峰子千泉子朗泉莉雲岬梢枝舟麗子雨子	甘加生
玉松 佳	芳祥竹八高生大白生麗玉上白一耕も玉童蕙矯 蘭紫美街騎大雲露大澤松泉珠葦雲く松泉書韻	書秀蕙潮若大祥琇矯 泉畠書音葉雲紫韻
青木 作	渡山八村松牧堀古藤長萩西中中土戸田高関砂鉛七椎坂斎工草北加加加小 木上浦野切谷本谷原山村江井部中橋口岡木三名本藤藤刈村納藤瀬田 木橋由登川川み木	澄黎明 ここ 春明
葵郷 <small>(50画)</small>	紀佳玉清喜多千洋葵一よ弘藤耶雅芳裕利和光里杏山眞志順翠夏愛 滋京舟月江次雲子東翠羅子龍子枝風衣泉枝子子善子子美昌屋華子子陽隆室	牛

明現菊中桜蓮”澄正一水青春紅蒼白紅　土正澄竹A八大八硯光竹蒼墨英”広祥樹正梅中高　澄誠あ千菊京光
雲台筆瑠　漢水月川草紅”春華弦海蓮汀風陽露瑠　氣華春原I生拙街水彩美陽花峰”島穂原華桃川真”春和か葉月橋
入　吉宮三松本深深林早根沼渡田高春須鈴杉新代清篠佐佐佐櫻櫻込小吉川川河葛岡大大梅植岩入石飯新東浅青
安熱青藍　坂岸田子烟原田木浦行田水田藤々々田山口瀬本本端　田西島山田瀬谷井田井川木
部海木澤　千百喜と寿内由思木　木
遷　鶴草英蒼合美清佳美萌み奎紀美蒼慶香睦祥幸瑞葉紀美陽美雅龍智美智彩南紫祥恵麻一竹久紅祥悠玲光惠花な松
明桃知白　子秋明舟雪洗月子香子心子信子舟心風華子子子子恵芳貞舟艸子雨汀仙桜美美鳳子雨園花子彩子江月
隆翠子珠

遷京秀一竹東華幸己黎桜 華椿高櫻松春声大幕千春澄華京 A 祥誠有光京 長蘭たは高櫻春富上大白 A 高一大上四桂や桜青峰
外橋韻弦美伯仙扇未明草 仙翠崎草村汀香雲張葉汀春仙橋 I 紫和秋昭橋 月鼎かせ崎草汀貴泉阪領 I 真宮雲泉枝月草峰